

2.統合失調症^{ハ°}クラム障害および他の精神病性障害群(B11)

・作成日:2018.6.1
・作成者:谷口 秀樹

中核となる統合失調症の記述は、下記の例外が廃止された以外は、DSM-4 とほぼ変わっていません。ただし、今まで、それぞれ独立した障害として記述されていた、妄想性障害・短期精神病性障害・統合失調症様障害が、統合失調型ハ°-ソカリティ障害を含めて、連続的に変化する障害として統合失調症^{ハ°}クラムと定義されました。

- * DSM-4 の例外記述・シカイ^{ハ°}-の1級症状(奇異な妄想、会話や患者の行動を説明する幻聴など)の場合は中核症状が1つでも統合失調症とされた。
- * DSM-4 に記載されていた、共有精神病性障害と失感情障害(ルキシナミア)の記載はありません。

【統合失調症^{ハ°}クラム】・上から下に重症化

①.統合失調型(ハ°-ソカリティ)障害

- ・統合失調症の中核症状がいずれもはつきりせず、意思疎通が可能。
* 詳しくは、18.ハ°-ソカリティ障害群の A 群に記述。

②.妄想性障害

- ・中核症状のうちで妄想のみが顕著な症状。妄想には奇異な妄想も含まれる

③.短期精神病性障害

- ・中核症状の1つ以上が確認され、1ヶ月以内に回復。

④.統合失調症様障害

- ・統合失調症の診断基準を満たすが 6 カ月以内に診断を満たさなくなる程度に回復。

⑤.統合失調症

- ・下記の 5 項目の中核症状(基準 A)のうち2つ以上(うち 1つ以上が(1)～(3))が1ヶ月以上常時存在し、前駆期、残遺期を含んで6 ヶ月以上継続する。
 - (1).妄想
 - (2).幻覚
 - (3).思考の解体、疎通性のない会話
 - (4).ひどくまとまりのない言動、緊張病性の行動
 - (5).陰性症状(感情の平板化、無為)

【その他の精神病性障害】

⑥.統合失調感情障害

- ・統合失調症の中核症状と同時に気分^{ハ°}リード^{ハ°}が共存する障害。

⑦.物質・医薬品誘発性精神病性障害

- ・薬物中毒または医薬品により、幻覚または妄想が生じる障害。
* 名称に医薬品(medication:薬物治療)が書き加えられました。

⑧.緊張病(Catatonia)

- ・DSM-4 では、Catatonia は一般身体疾患による精神疾患、統合失調症の緊張型、気分障害の特定用語に分散されて記述されていましたが、DSM-5 では、ここにまとめて記述されています。

* 主な症状は、昏迷、カレブシー、蝶屈症、反響言語・動作などです。

以上